

ずいひつ ①

Z U I H I T U



稽古に励みながら

経済産業省
地域産業基盤整備課
工業用水道計画官

佐々木 忠則

趣味はと聞かれたらスポーツ観戦と言っていた。学生時代、まずは当時唯一のメジャースポーツと思っていた野球を、今であればおそらくサッカーをやっていたと思うが。その後は、ウィンタースポーツの競技スキー、そして、根性系スポーツのラグビーと全く別の種目のスポーツを経験してきた。このため興味があるスポーツは数多くある。今でもシーズンになれば秩父宮にラグビー観戦に出かけることはあるが、試合会場には行かないまでも様々なスポーツのTV中継や、家族からは理解されないが週末の夜はチャンネルを回しながら各局のスポーツニュースを見ることを楽しみにしている。

最近、スポーツ中継などを見ていて、家族で感心していることがある。若いスポーツ選手、特に、アマチュ

ア選手の試合直後のインタビュー時の話し方である。インタビュアーの質問に対してしっかり対応し、話すことが整理され視聴者に伝わる話ができているところである。プロ選手は話し方の講習会などがあると聞いたことがあるが、こうした受け答えはどこで身に付けるのだろうか。話し方が不得意な私にとって見習いたいと思っている。

さて、最近は趣味を聞かれることは少ないが、現在の趣味は空手である。当時園児だった息子に武道をさせたいという親の勝手な考えから、家族で一緒に始めたのがきっかけで、今では私自身が填っている。空手は4大流派があり海外での競技人口も多い。私が通っている道場は、年齢層も目的も様々で、時々外国からの見学者も来る他、道場の先生は海外にも出かけ指導している。こうした中、最近は道場で習うだけでなく指導する機会を少し与えられるようになった。技術的にはまだまだであるが、折角の機会でもあり稽古に励みながら、今は、指導する際は相手のモチベーションを維持させながら、相手が理解しやすい説明、話し方を心掛けている。



「お客様が安心し、信頼を寄せる事業体」を目指して

千葉県水道局長

岡本 和貴

千葉県水道局は、平成28年4月に工業用水道事業が移管され、上水道及び工業用水道の2事業を担う公営企業として、3年目を迎えました。

上水道事業は、昭和11年の給水開始以来、80年余にわたり県北西部地域のお客様に水道水をお届けし、また、工業用水道事業は、昭和39年の給水開始以来約半世紀にわたり、東京湾臨海地域などへの工業用水の安定的な供給に努めてきました。

両事業とも、千葉県の発展に併せて、数度の事業拡張を行い、現在、上水道事業については県人口の半数にあたる約300万人のお客様に水道水を、工業用水道事業については7地区281社に工業用水をそれぞれ供給し、お客様の豊かな生活と企業の経済活動を支える原動力となっています。

上水道事業では、平成28年度からの5年間の取組を具体化した「千葉県営水道事業中期経営計画」に基づき、計画的な事業運営に取り組んでいます。計画3年目にあたる本年は、東日本大震災で大規模な被害が発生した湾岸埋立地域を中心に、水道管の更新・耐震化にこれまで以上に取り組んでいくほか、平成35年の施設稼働に向け、ちば野菊の里浄水場（第2期）施設整備事業の整備工事を進めています。

また、工業用水道事業では、平成30年3月に、平成30年度からの5年間を期間とする「千葉県工業用水道事業中期経営計画」を策定し、計画的な施設の更新・耐震化を進め、引き続き工業用水の安定供給に取り組んでいくこととしています。

これからも、お客様や利用者様からのさらなる信頼を得るため、安全でおいしい水を安定的に供給し、成熟型社会にふさわしい持続可能なライフラインとしての使命を果たすとともに、工業用水の安定供給による本県の産業競争力の維持・強化に寄与して参ります。